

ジェンダー配慮の良い事例（参考）

プロジェクト情報

- 国名：ヨルダン
- 案件名等：家族計画・WIDプロジェクトII
(技術協力プロジェクト)
- 期間：2000年から2003年
- 先方機関：保健省、
ヨルダン・ハシェミット人間開発基金、
(JOHUD)
- 当方機関：国立社会保障人口問題研究所、
国立国際医療センター、
家族計画国際協力財団(JOICEF)

1. プロジェクト概要

(1) 背景・経緯

ヨルダンは文化的、宗教的背景から、一般的に、女性は早婚・多産の傾向にあり、合計特殊出生率は要請時94年には5.4と多く、年平均人口増加率も3.4%と高率であった。急速な人口増加が経済復興途上のヨルダンの様々な面で人々の生活の向上に影響を及ぼしており、政府は人口問題を重要な国家課題として捉え、保健医療・女性問題を包括した総合的なリプロダクティブ・ヘルス活動を実施できるよう体制を再編するとともに、関連技術協力を日本政府に要請した。

JICAは、ヨルダンの中で最も保守的で貧しい南部地域のモデルエリア（カラク県南ゴール郡）において、97年から2000年まで、家族計画従事者や女性指導者の人材育成等WIDアプローチを通じた総合的なリプロダクティブ・ヘルス活動を実施した。

ヨルダン政府はプロジェクトの成果を基礎に、カラク県全体を対象として、家族計画の推進や女性の社会参加を促進するためにフェイズIIのプロジェクト支援を要請してきた。

(2) プロジェクト目標と活動

カラク県において家族計画がさらに実践されるために、①対象住民の意識変化、態度や行動の変容を促すことを目的としたIEC(Information, Education, Communication)プログラムの実施、②母子保健センター医療スタッフの訓練や医療機材供与によるサービスの質の向上、③女性の行動変容を促すための基盤・エントリーポイントとなる収入創出活動推進する。

2. 日本側関連援助

(1) 家族計画・WIDプロジェクト(1997年～2000年)

標記プロジェクトは、本件プロジェクトのフェイズIに当たる。カラク県南ゴール郡(人口3万人)において、医療従事者や女性指導者の人材育成等WIDアプローチを通じた総合的なリプロダクティブ・ヘルス活動を実施し成果をあげた。

(2) リプロダクティブ・ヘルスと農村女性のエンパワメント(旧開発福祉支援)(2003年～2005年)

プロジェクト活動を継続する形で実施。

(3) 第三国研修「ジェンダーとRH啓蒙活動」(2003年～2006年)

JOHUDの傘下の研修機関(ヨルダン・ハシェミット人間開発基金)により、アラブ周辺国を対象としたジェンダーとリプロダクティブ・ヘルスのアドボカシーを目指した研修を実施されている。

(4) 「カラクモデル」の普及(予定)

中近東地域の最大の問題は世界最高水準の人口増加率(2.7%)である。プロジェクトで得た経験、教訓はヨルダン国内に留まらず、同様の問題を抱える周辺国にも多大な裨益をもたらす可能性がある。この他、プロジェクトの経験と教訓に基づく「カラクモデル」をヨルダン南部地域でも適用するべく検討中。

3. プロジェクトにおけるジェンダー配慮の実施

● 効果確保のための包括的アプローチの採用

(1) プロジェクト活動内容の選定

女性が、家族計画の重要性や自立的な生き方について理解し、それを実現するために経済的な自立を確保することは重要な意味を持つ。自分で自由にできる収入は、子どもや家族の栄養状況改善を促進したり、家庭の中での発言権の確保につながる。ことが多いことから、女性に対する生計向上活動支援をプロジェクト活動対象とするようにした。具体的には、ヤギの飼育や養蜂のためのヤギや道具の貸し出しと技術指導やスクーリングである。これらに参加した女性たちは自尊心や自信を得たり、家庭内で意思決定に参加し、役割が増したと自己判定した。

● 典型的な女性対象案件における男性の参画の確保

(2) 男性パートナー、宗教指導者、村の実力者との連携

保守性の強い土地に新しい考えを持ち込むことは難しく、地域全体が変化を受け入れる雰囲気作りが不可欠である。ヨルダンでは、男性パートナーが子どもの数を決定するといわれている。このためプロジェクトは、男性パートナーに影響を与えることのできる、宗教指導者や村の実力者、学校の教師へ働きかけて、家族計画とイスラムの教えの関係を明らかにした。男性パートナーの理解をもとに、女性たちが家族計画ワークショップ参加や地域サポートチーム(ST)の家庭訪問を受け入れを確保した。

● 女性のエンパワーメントの促進

(3) 女性の自立のための知識普及

女性自身が子どもを持つ時期やその人数について考えパートナーと相談すること、妊娠・出産も含む自分の健康と子どもの成育を積極的にとらえること、自分の意志を大切にしたい生き方をするよう行動を変えることが可能となるよう、関連情報の提供や普及を行った。こうした情報が伝わるにつれ、それを実行するために母子保健センターを訪問する女性が増加した。

啓蒙普及員としてプロジェクトに参加した女性たちはプロジェクトを通じリプロダクティブ・ヘルスに関する正しい情報を学び、伝達するだけでなく、新しい役割を担ったことで自信を得たり、村人から尊敬と感謝の念をもたれたと自己評価するようになっただけでなく、村と社会にこれからも貢献していきたいと表明するようになった。

● 援助対象国の既存の性別役割を考慮したアプローチの選択

(4) 女性による女性のための女性へのアプローチ

カラク県はヨルダンの中で最も保守的な地域とされ、女性は性別役割分担の下、一般的には家庭内に留まっている。このため、家庭外で行われる家族計画ワークショップやセミナーに参加しにくい状況にあった。プロジェクトは既存の社会や文化の中での解決策を模索し、コミュニティー・サポートメンバーを養成し、女性たちを家庭訪問して情報を伝えることを考えた。不信感を与えぬよう、メンバーは、女性住民の中から希望者を募り、家族計画やリプロダクティブ・ヘルスについて指導できるようトレーニングを行った。以前は家庭に留まっていたものの、プロジェクトの手足となって活動するメンバーの様子は村の他の女性たちにもアピールするところがあった。

● 男女別統計・データの収集・活用、男女の状況の違いの確認

(5) 多様な成果の評価

意識の変化、態度や行動変容を成果として明示するのは難しい。本プロジェクトは、活動の一環としてモデルエリアで、ジェンダー分析を含む基礎調査を実施した。男女住民の状況の違いについて、プロジェクト計画段階で、情報・データを収集したことから、収入創出活動による女性のエンパワーメントの成果につき定性的な評価ができた。